

夢窓幼稚園通信第41号

2023年 11月30日

いよいよ 今年もあとひと月を残すのみとなりました。
澄んだ夜空の誰かがよく知っているあのオリオ座を
見上げながら、思わずこの一年の様々を静かに
振り返ります。

ひとつの締めくくりの時を、これまで気になりながら手を
つけられなかったことや 途中で放り出したこと、仕上げを
したいこと・・・そして次の年に手掛けようと思うことを
して おこうとするからなのかもしれません。

夢窓 のことに関しては 淨かんでくることは山盛りあり封が、
そのいくつかをご紹介します。

・19年前 電気を作り続けてくれた「おひさま発電所」が
10月に突然 停止してしまいました。太陽電池で作った
電気を実際に利用できるように変換してくれる「パワーコンディショナ」
の老朽化によるものようです。長年働いてくれた機器に
感謝しつつ 取替への準備をします。

気になっている所の安全対策に着手します。

① 園庭南側のフェンス等を高くします。

竹ぼうや桜の木、正門横の壁に腰かけたり、下さ
のぞき込んだり 飛び越えようとする姿が時折あり
ました。落下防止等考え冬休みに設置します。

そのため・・・「かいづかいぶき」の木を切らざるを得ません。
長い間子どもたちを見守ってくれて ありがとう です。

② もくせん、ゆゆへの階段やトンネル周辺のコンクリ部分を
柔らかいものにしていきます。

もしも・・・に備え 今工務店に相談しています。

③ 幼稚園の場の新たな機能の土台作りの青写真作り、！？

「跡見ぐせ」という言葉を 以前に教わったことがあります。

これまでのひとつひとつの行為を、いつでも振り返って見る習慣を持ち
過ごすということです。

自分自身を省みつつ、一人の私の習慣を超えて、私たちの生活の場を、
今の社会意識を跡見ぐせする必要がある時代である気がします。
クリスマスは 2000年前の壮大なドラマであると同時に、「今」の
時代を私たち自身が 生命化する勇気を励まされるためにもある
ような気がしています。

園長 升光 泰雄